

科目別シラバス

項目 科目名	時間数	到達目標	内容
I 職務の理解	6時間		
(1) 多様なサービスの理解	2時間	介護保険・介護保険外のサービスの種類と、サービスが提供される意義や目的を理解する。	講義 演習 介護保険サービス（居宅、施設）、介護保険外サービス DVD等を用いてイメージをする
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4時間	各種サービスの内容や利用者像などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する ケアマネジメントを通じて介護サービス提供に至るまでの流れを理解する	講義 演習 居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージをDVD等を用いてイメージする ケアプランの作成からサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携をグループワーク等でイメージする
II 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間		
(1) 人権と尊厳を支える介護	5時間	介護を必要とする人が有する権利、介護に関する基本的な視点を学ぶ 利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する	講義 演習 個人としての尊重、アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」の実感、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシーの保護 介護分野におけるICF QOLの考え方、生活の質 ノーマライゼーションの考え方 虐待防止・身体拘束禁止 身体拘束禁止、高齢者虐待防止法、高齢者の養護者支援 個人の権利を守る制度の概要 個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業
(2) 自立に向けた介護	4時間	介護における自立とは何かを学ぶ 「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する 介護予防の考え方について	講義 演習 自立・自律支援、 残存能力の活用、動機と欲求、意欲を高める支援、個別性／個別ケア、重度化防止 介護予防の考え方

		理解する	
Ⅲ 介護の基本	6時間		
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1時間	介護環境の特徴を学ぶ 介護の専門性、専門職に求められるものは何かを学ぶ 多職種について理解し、多職種連携の目的を学ぶ	講義 訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性 重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム、 介護に関わる職種 異なる専門性を持つ多職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームとなり利用者を支える意味、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供
(2) 介護職の職業倫理	1時間	介護職がもつべき職業倫理を学ぶ 介護職にかかわる倫理綱領を理解する	講義 専門職の倫理の意義、介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2時間	利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ 利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶ	講義 演習 事故に結びつく要因を探り対応していく技術、リスクとハザード 事故予防、安全対策 リスクマネジメント、分析の手法と視点、事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）、情報の共有 感染対策 感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）、「感染」に対する正しい知識
(4) 介護職の安全	2時間	介護職自身の健康管理の必要性、健康管理の方法を学ぶ	講義 演習 介護職の健康管理が介護の質に影響、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識、手洗い・うがいの励行、手洗いの基本、感染症対策
Ⅳ 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9時間		
(1) 介護保険制度	3時間	介護保険制度が創設された背景を理解し、制度の目的	講義 介護保険制度創設の背景及び目的、動

		と動向について学ぶ 介護保険制度の基本的なしくみ、制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに制度の財政について学ぶ	向ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進 保険制度としての基本的仕組み、介護給付と種類、予防給付、要介護認定の手順 財政負担、指定介護サービス事業者の指定
(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	3時間	障害者福祉制度における障害の概念についてその歴史を踏まえて学ぶ 障害者総合支援制度の基本的なしくみについて理解する	講義 障害の概念、ICF、障害者の自立支援に関する制度の仕組みの基礎的理解 介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで 個人の権利を守る制度の概要 個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業
(3) 医療との連携とリハビリテーション	3時間	介護職と医療行為の実情と経過について理解する 介護職と看護職の役割・連携について理解する リハビリテーションの理念と考え方について理解する	講義・演習 医行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念
V 介護におけるコミュニケーション技術	6時間		
(1) 介護におけるコミュニケーション	3時間	対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する 介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する	講義 演習 相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感の応答 コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション 言語的コミュニケーションの特徴、非言語コミュニケーションの特徴 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 利用者の思いを把握する、意欲低下の要因を考える、利用者の感情に共感する、家族の心理的理解、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い

			視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、失語症に応じたコミュニケーション技術、構音障害に応じたコミュニケーション技術、認知症に応じたコミュニケーション技術
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	介護における記録の意義と目的を理解し、欠き方の留意点などについて学ぶ 報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学ぶ 会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方について学ぶ	講義 演習 記録における情報の共有化 介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、介護に関する記録の種類、個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）、ヒヤリハット報告書、5W1H報告の留意点、連絡の留意点、相談の留意点 コミュニケーションを促す環境 会議、情報共有の場、役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）、ケアカンファレンスの重要性
VI 老化の理解	6時間		
(1) 老化に伴うこととからだの変化と日常	3時間	老化が影響を及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する 老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する 身体的老化現象と日常生活の変化について理解する	講義 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 防衛反応（反射）の変化、喪失体験 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響、身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下 筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響
(2) 高齢者と健康	3時間	高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解する	講義 骨折、筋力の低下と動き・姿勢の変化、関節痛 循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、循環器障害の危険因子と対策、老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、誤嚥性肺炎、病状の小さな変化に気づく視点、高齢者は感染症にかかりやすい
VII 認知症の理解	6時間		
(1) 認知症を取り巻く状況	1時間	「認知症」から「その人を	講義

		中心とした」ケアの意義を理解する できないことではなくできることをみて支援することを理解する	認知症ケアの理念 パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点（できることに着目する）
（２）医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	2時間	老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する 認知症の主な原因疾患の病態、症状について学ぶ	講義 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 認知症の定義、もの忘れとの違い、せん妄の症状、健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、治療、薬物療法、認知症に使用される薬
（３）認知症に伴うこころとかからだの変化と日常生活	2時間	認知症の症状を知り、どのようなケアが必要か学ぶ 認知症の人の行動と環境との関係について理解する その人の尊厳を守る視点をもつことについて理解する	講義 演習 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 認知症の中核症状、認知症の行動・心理症状（BPSD）、不適切なケア、生活環境で改善 認知症の利用者への対応 本人の気持ちを推察する、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる、失敗しないような状況をつくる、すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、身体を通したコミュニケーション、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、認知症の進行に合わせたケア
（４）家族への支援	1時間	家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ	講義 認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア）
VIII 障害の理解	3時間		
（１）障害の基礎的理解	1時間	「障害とは」を考え、ICFに基づきながら「障害」の概念について理解する 障害者福祉の基本理念について理解する	講義 障害の概念とICF ICFの分類と医学的分類、ICFの考え方、障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーションの概念
（２）障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎知識	1.5時間	障害の原因となる主な疾患を理解する 障害に伴う心理的影響、障害の受容を理解する 障害のある人の生活を理解	講義・演習 身体障害 視覚障害、聴覚、平衡障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由 内部障害、知的障害、知的障害

		し、介護上の留意点を学ぶ	精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む）統合失調症・気分（感情障害）・依存症などの精神疾患、広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 その他の心身の機能障害
（３）家族の心理、かかわり支援の理解	0.5 時間	家族支援は、家族介護の代行支援だけではないことを学ぶ	講義 障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減
Ⅸ ころとからだのしくみと生活支援技術	75 時間		
ア）基礎知識の学習	10 時間		
（１）介護の基本的な考え方	4 時間	「介護」が理論的、法的にどのような変遷をたどってきたか理解する	講義 演習 理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、法的根拠に基づく介護
（２）介護に関するころのしくみの基礎的理解	3 時間	学習と記憶、感情と意欲に関する基礎的な知識を理解する 自己概念、老化や障害の受容に関する基礎的な知識を理解する	講義 学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、ころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がころに与える影響
（３）介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	骨や関節など、からだの動きのメカニズムを理解する 神経の種類とその働きを理解する 身体の器官の働きを理解する	講義 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋肉に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、ころとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気づく視点
イ）生活支援技術の講義・演習	54 時間		
（４）生活と家事	1 時間	生活を継続していくための家事の重要性について学ぶ 家事援助はどのような意味があるのか理解する	講義 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的な知識と生活支援、生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観
（５）快適な居住環境整備と介護	1 時間	住まいにおける安心・快適な室内環境の意味と確保の	講義 快適な居住環境に関する基礎知識、高

		<p>仕方について学ぶ</p> <p>住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ</p>	<p>高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</p> <p>家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与</p>
<p>(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	8 時間	<p>整容の必要性と、整容に関連するところとからだのしくみを理解する</p> <p>利用者本人の力を活用し、整容の介護を行うための技術を身につける</p>	<p>講義 演習</p> <p>整容に関する基礎知識、整容の支援技術</p> <p>身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果</p>
<p>(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	12 時間	<p>移動・移乗の必要性と、移動・移乗に関連するところとからだのしくみを理解する</p> <p>利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介護を行うための技術を身につける</p> <p>心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する</p>	<p>講義 演習</p> <p>移動・移乗に関する基礎知識、様々な移動・移乗に関する用具とその活用方法</p> <p>利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援</p> <p>利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用・自立支援、重心・重力の動きの理解、ボディメカニクスの基本原理、移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）、移動介助（車いす・歩行器・つえ等）、褥瘡予防</p>
<p>(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	8 時間	<p>食事の必要性と、食事に関連するところとからだのしくみを理解する</p> <p>利用者本人の力を活用し、食事の介護を行うための技術を身につける</p> <p>心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する</p>	<p>講義 演習</p> <p>食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p> <p>食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識、低栄養の弊害、脱水の弊害、食事と姿勢、咀嚼・嚥下のメカニズム、空腹感、満腹感、好み、食事の環境整備（時間・場所等）、食事に関する福祉用具の活用と介助方法、口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防</p>

<p>(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>8 時間</p>	<p>入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と、入浴に関連するところとからだのしくみを理解する 利用者本人の力を活用し、入浴の介護を行うための技術を身につける 心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する</p>	<p>講義 演習 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認、全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）、目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、陰部清浄（臥床状態での方法）、足浴・手浴・洗髪</p>
<p>(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>8 時間</p>	<p>排泄の必要性和、排泄に関連するところとからだのしくみを理解する 利用者本人の力を活用し、排泄の介護を行うための技術を身につける 心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する</p>	<p>講義 演習 排泄に関する基礎知識、様々な排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 排泄とは、身体面（生理面）での意味、心理面での意味、社会的な意味、プライド・羞恥心、プライバシーの確保、おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害、排泄障害が日常生活に及ぼす影響、排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）</p>
<p>(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>5 時間</p>	<p>睡眠の必要性和、睡眠に関連するところとからだのしくみを理解する 心地よい安眠を支援するための知識と技術を身につける 心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する</p>	<p>講義 演習 睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 安眠のための介護の工夫、環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、安楽な姿勢・褥瘡予防</p>
<p>(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護</p>	<p>4 時間</p>	<p>終末期のとらえ方を学ぶ 終末期から死までの身体機能の変化にちて理解し、状況に合わせた対応を学ぶ 死に直面したときの人の心</p>	<p>講義 演習 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援</p>



		理状況について理解し、こころの変化の受け止め方を学ぶ	終末期ケアとは、高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）、臨終が近づいたときの兆候と介護、介護従事者の基本的態度、多職種間の情報共有の必要性 グループワーク
ウ) 生活支援技術演習	11 時間		
(13) 介護過程の基礎的理解	3 時間	介護過程の目的と意義、展開プロセスについて理解する チームアプローチにおける介護職の役割と専門性について理解する	講義 演習 介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチ
(14) 総合生活支援技術演習	8 時間	事例を通じて、利用者の力が発揮できない要因を分析する 事例を通じて利用者にとって適切な支援技術は何かを検討する 事例を通じて利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点について理解する	講義 演習 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。 事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題(1事例1.5時間程度で上のサイクルを実施する)
X 振り返り	4 時間		
(1) 振り返り	3 時間	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認できる	講義 演習研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと 根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1 時間	就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識ができる	講義 継続的に学ぶべきこと、研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例(Off-JT、OJT)を紹介